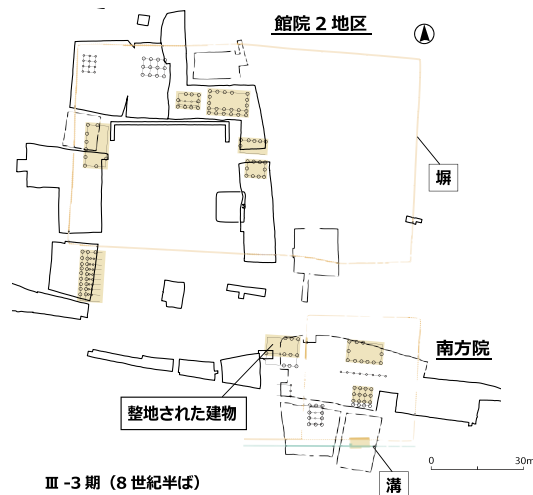


館院 2 地区

館院 1 地区と同規模の院で、建物の配置も似ています。内部からは南面に^{ひさし}庇を持つ 5 間×3 間の大型建物（およそ 84 m²）や倉庫、竪穴建物などがみつっています。館院 1 地区よりも大型の建物が多く、中には地面に粘土を貼って整地しているものもあります。居宅（館）の可能性が考えられます。



整地された建物の基礎（南方院）

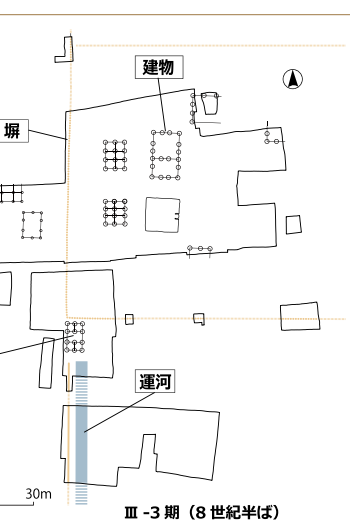


Ⅲ-3 期（8 世紀半ば）

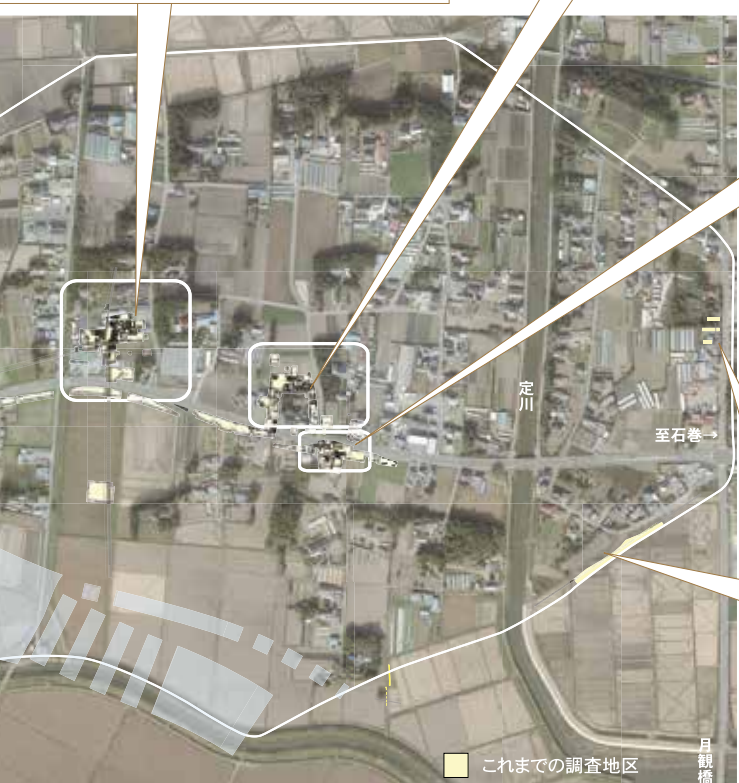
南方院は館院 2 地区の南に隣接する東西 35 m、南北 39 m の院です。内部の建物は左右対称に配置されており、粘土で整地されている建物や白壁で仕上げた建物もみつっています。周辺からは蝦夷の土器や牡鹿郡内の「郷」（ムラ）の名が墨書された土器が出土しており、交流や^{きょうえん}饗宴、^{ぎらい}儀礼を行う場であった可能性が考えられます。



南方院想像図



Ⅲ-3 期（8 世紀半ば）



赤井官衙遺跡 全体図

外郭施設

遺跡の南東辺で材木塀と大溝が見つっています。また、東辺でも材木塀が発見されています。材木塀は丸太材を隙間なく並べたもので、蝦夷や外敵からの攻撃に備えた**軍事的な施設**です。



南東辺の材木塀と大溝の跡



関東系土師器



荷札の木簡
「海道二番」



「舎人」と刻書された土器



「上郷」（牡鹿郡内の郷）
と墨書された土器

遺跡から見つかった遺物



蝦夷の土器（漆が付着）



円形の硯に台が付いた^{えんめんけん}円面硯



鉄製の矢じり

鉄製の馬具

鉄釘